

清瀬市長 澁谷 桂司 様

鉄道車両選定に関する提言

清瀬市では、中央公園の整備とあわせて児童館、図書館、地域市民センターの機能を含む複合施設の建設に伴い、令和4年3月に『児童館整備基本計画』を策定、昨年には、基本設計及び実施設計業務のプロポーザルを実施し、国立競技場や高輪ゲートウェイ駅など、国内外で多数の有名建築に携わっている隈研吾建築都市設計事務所と委託契約を締結し、整備基本計画に基づき実施設計を行っています。

本事業では、中央公園内ににぎわいを創出し、子どもも大人も楽しむことのできる施設を設置したいと庁内で検討した結果、鉄道車両の設置を決定し、市民に向けた中間報告会でも説明及び意見聴取を行いながら事業が進められてきたところです。

鉄道車両の確保に向けては、西武鉄道株式会社や東日本旅客鉄道株式会社へ鉄道車両の譲渡について打診をしたものの、譲渡条件が整わない中、「ららぽーと新三郷」にある鉄道車両「夢空間」を所有する三井不動産株式会社より、有効に末永く活用いただけるのであれば譲渡することが可能であるとのことをご提案をいただきました。

これを受けて清瀬市は、本年11月に清瀬市民、学識者、市職員からなる「鉄道車両譲受検討委員会」を設置し、当該車両の譲り受け・保存・活用などについて検討し、鉄道車両の選定を慎重に進めてきました結果、「夢空間」を設置することがもっとも望ましいという結論に至りましたので、別紙のとおり提言いたします。

令和5年11月27日

清瀬市鉄道車両譲受検討委員会

目 次

1 提言	・ ・ ・ ・ ・ 2
2 清瀬市鉄道車両譲受検討委員会委員名簿	・ ・ ・ ・ ・ 3
3 検討委員会開催経過	・ ・ ・ ・ ・ 3
4 「夢空間」とは	・ ・ ・ ・ ・ 4
5 資料	・ ・ ・ ・ ・ 5
【資料1】「ダイニングカー」オシ 25 901	
【資料2】「ラウンジカー」オハフ 25 901	

1 提言

清瀬市は「夢空間」車両を譲り受け、修復・活用・保存すべきである。

(1) 提言の観点

鉄道車両を譲り受け、公園内に展示・活用する手法は先行事例が多数あるが、当該車両「夢空間」については、コンセプト車両として製造され、日本にそれぞれ1両しか存在せず、日本の鉄道史においても貴重なものであることから、清瀬市が譲り受けることによりマスコミなどにも大きく扱われることが想定され、市内外の多くの方が中央公園を訪れるきっかけとなることが期待される。このことから、南部地域児童館等複合施設及び中央公園整備の事業コンセプトとしている、にぎわいの創出の具現化に大きく寄与するものとする。

また、この車両は、日本における豪華寝台客車のパイオニアであり、鉄道遺産としての価値も高いことから、これを譲り受けることにより、清瀬市として中央公園のにぎわいの創出はもとより、シティプロモーションや市民のシビックプライドの醸成の側面からも大きな発展可能性を秘めていると考える。これらのようなにぎわいの創出、集客効果を持続的なものとするためには、清瀬市が車両の文化的価値を適切に維持し、末永く活用することで後世に引き継ぐことが重要である。

今後、清瀬市において、この貴重な車両を譲り受け・活用するにあたっては、クラウドファンディングなどの寄付による資金調達を積極的に行い、財務的な負担の軽減を図るとともに「夢空間保存活用計画」を策定することで、将来的には、鉄道記念物や文化財への指定や登録も十分に可能性があるものとする。

(2) 設置整備について

現況を確認したところ、再塗装に加えて外装・内装の修復が急務である。「夢空間」車両の歴史的価値に鑑み、できるだけ新製時オリジナルの姿に修復することが望ましい。

(3) 維持について

適切に維持していくためには、屋根を設置するなど、風雨や紫外線から車両を守る必要がある。

(4) 活用について

持続的かつ適切に維持していくためには、車両そのものを活用することでメンテナンス費用を生み出していくことが望ましい。以下にその具体例を挙げる。

ア 貸出施設としての活用

イ 図書館や児童館イベント等での活用

ウ 観光スポットや市のシティプロモーションツール（撮影など）としての活用

エ ダイニングカー・ラウンジカーを使ったレストラン営業等、貸付施設としての活用

2 清瀬市鉄道車両譲受検討委員会委員名簿

(1) 外部委員（50音順）

里見 英昭 氏（清瀬市民）

園部 正二 氏（清瀬市民、元清瀬市郷土博物館協議会委員）

高嶋 修一 氏（青山学院大学 経済学部 教授）

成田 孝光 氏（多摩六都科学館研究・交流グループリーダー）

(2) 庁内委員

経営政策部参事 木原 雄嗣

未来創造課長 佐藤 信明

建築管財課長 田村 文義

水と緑と公園課長 木村 広昇

郷土博物館学芸員 中野 光将

(3) 事務局

未来創造課イノベーション推進係 栗原 孝仁、松崎 由衣

3 検討委員会開催経過

(1) 第1回鉄道車両譲受検討委員会

【日時】令和5年11月7日（火）11:00～12:30

【会場】清瀬市役所4階 研修室3

【内容】委員紹介

南部地域児童館等複合施設及び中央公園整備について
鉄道車両について

(2) 第2回鉄道車両譲受検討委員会

【日時】令和5年11月13日（月）16:00～17:30

【会場】清瀬市役所2階 市民協働ルーム

【内容】譲り受けを予定する鉄道車両について

近隣に存在する保存車両の状況

(3) 第3回鉄道車両譲受検討委員会 次第

【日時】令和5年11月17日（金）14:00～15:30

【会場】清瀬市役所3階 会見室

【内容】「夢空間」車両の譲り受けについて

保存・活用について

(4) 第4回鉄道車両譲受検討委員会 次第

【日時】令和5年11月27日（月）15:00～17:00

【会場】清瀬市役所3階 会見室

【内容】委員会からの提言について

4 「夢空間」とは（※参考:「鉄道ファン」誌、「鉄道ピクトリアル」誌、ブログ、ホームページ等より一部引用）

（１）概要

「夢空間」は、国鉄が民営化され東日本旅客鉄道株式会社になってから新造された車両であり、１号車の食堂車「ダイニングカー」、２号車のラウンジカー「クリスタルラウンジ・スプレモ」、３号車の寝台車「デラックススリーパー」の３両１組で構成され、それぞれ緑、赤、青を基調とした鮮やかな外観をしている。

昭和の最後に発足した東日本旅客鉄道株式会社が新しい時代の活用にあふさわしい車両を造りだそうとし、平成元年、桜木町駅前において、はじめて公開・展示され、平成３年に一般営業運転を開始、予約が困難ほどの人気を誇ったが、残念ながら平成２０年に老朽化を理由に営業運転を終了し廃車となった。

ラウンジカーとダイニングカーは、平成２１年９月より埼玉県三郷市の「ららぽーと新三郷」に展示され、ラウンジカーのみ内部を見学可能。デラックススリーパーは江東区木場にあるレストラン「アタゴール」に移設されており、車内ではお茶を飲むこともできる。

「夢空間」車両は、後に豪華寝台列車として開発・製造された「カシオペア」や令和の時代の「TRAIN SUITE 四季島」などへ多大な影響を与えている。

（２）譲り受け予定車両

ア 「ダイニングカー」オシ 25 901

製造を東急車両、内装デザインを東急百貨店が担当。大きな展望窓が特徴で、中央部に４人用個室を設けている。編成最後尾にダイニングルームを配置していることから、関係ない人の通り抜けがなく、ゆったりとした空間の中で食事ができた。

イ 「ラウンジカー」オハフ 25 901

製造を富士重工業、内装デザインを松屋百貨店が担当。豪華な装飾、自動演奏ピアノによる音楽が流れるなど、贅沢な時を演出した「クリスタルラウンジ・スプレモ」は、中央に配置されたバーカウンター、ゆったりとしたソファなど「オリエントエクスプレス」を彷彿させる。

5 資料

【資料1】「ダイニングカー」オシ 25 901



【資料2】「ラウンジカー」オハフ 25 901

